

平成31年度小平市立鈴木小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

学習に円滑に取り組むことができるための知識や、実生活において活用できるようになっていることが望ましい知識・技能が身に付いていることを確認し、今後の学習に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

小学校においては第5学年まで習得し、活用できるようにしておくべきと考えられる内容を出題しています。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

・国語全体の正答率は、全国平均より5.2ポイント上回った。どの領域も正答率が高く、特に「話す・聞く」「読むこと」が高い。よって、学習内容は定着しているといえる。「活用」に関する問題は、「記述式」の問題も、全国・都の平均を上回っている。

・図表やグラフなどの資料をどのような目的で用いているのかを捉えたり、正確な漢字を書いたりすることが課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・本校は、毎週朝学習の15分間を全校児童が漢字学習をしている。しかし、結果を受け、週2回の朝学習だけでなく、日頃からどの教科においても習った漢字を使用するよう意識付けを強めていく。また、家庭と連携をとりながら家庭学習で丁寧に正確な漢字を集中して書き取るように進めていく。
- ・各教科において、図表やグラフなど正確に読み取る力を身に付けさせる。自分の考えを伝える根拠として、必要な図表やグラフを選択し活用できる活動を意図的に設定して行う。

【算数】

状況の分析

課題

・算数全体の正答率は、全国平均を4.2ポイント上回ったが、都の平均は下回った。領域では、「図形」「数量関係」において全国・都の平均を下回った。問題形式において、「記述式」の問題は、全国・都の平均を上回った。

・図形の性質を活用して問題を解いたり、基準量、比較量、割合を理解したりすることに課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・「割合」の問題の捉え方や解き方を丁寧に復習し、演習する。その後、2つの数量関係を正しく分かり易く捉えさせるために、数直線や図を積極的に活用させて問題を解かせ、児童が筋道を立てて説明する学び合いの時間を増やし、理解を深めていく。
- ・繰り返しドリルや東京ベーシック・ドリルを授業や家庭学習で活用し、児童自身が自主的に自身の理解度を認識できるようにする。

【質問紙】**状況の分析****課題**

- ・「朝食を食べる」「早寝早起きをする」では、全国平均を上回り、家庭での基本的な生活習慣が身に付いているといえる。「いじめはいけない」と解答した児童は、95.3%で全国平均を10.3ポイント高く上回っている。話合いや自己肯定感に関する項目も全国平均を上回った。

- ・「家で計画を立てて勉強をする」や「地域の行事に参加する」の項目は、全国平均と同等かやや下回った。

学校等で取り組む具体的な改善策

- ・基本的な生活習慣が身に付いている状況を生かし、定着が低い項目には個別に対応したり学年に応じて指導を工夫したりして、確実に習慣化できるようにする。
- ・本校の道徳教育の重点目標や「特別の教科 道徳」の重点C「主として集団や社会との関わりに関すること」、高学年の重点「よりよい学校生活、集団生活の充実」を中心に自他を大切にする心を育む。
- ・総合的な学習の時間や「特別の教科 道徳」を通して、地域理解や自校や地域への愛着を深める。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけない」について、100%の児童が「いけない」と答えることを目指し、今後も繰り返し指導をしていく。
- ・進んで家庭学習計画を立て、実行できるよう自主学習の仕方を指導し、模範になる児童のノート等を学級で共有する。